

令和5年度 「第4回上士幌町みんなでチャレンジ！ノースクリーンデー」

---

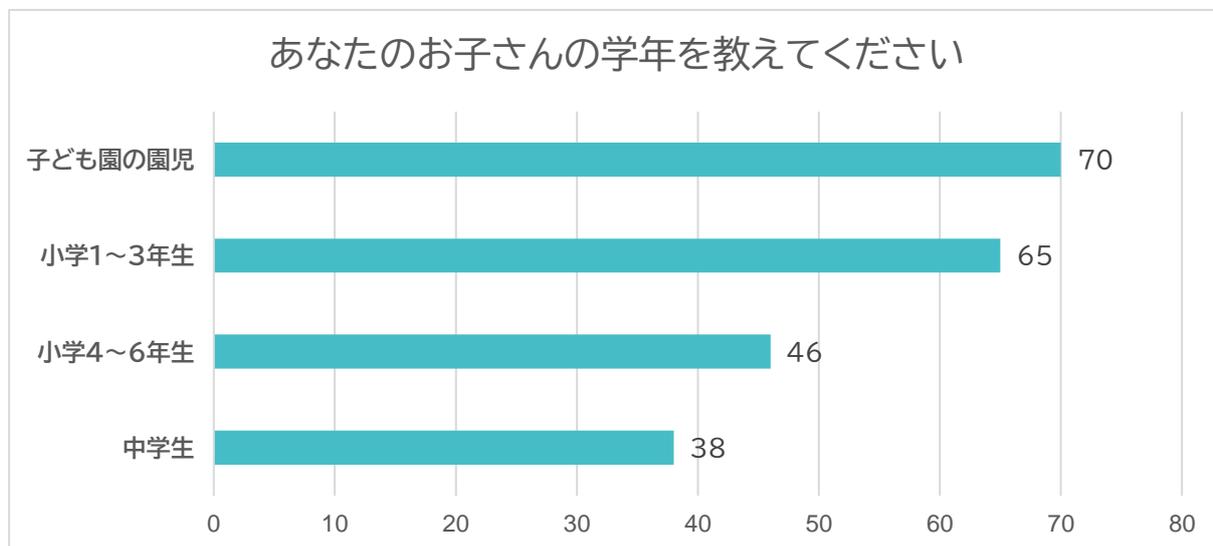
## 第4回ノースクリーンデー結果報告書

実施日：令和6年2月1日(木)

対象者：小学校・中学校・こども園の保護者

回答数：156件

## 第4回ノースクリーンデーアンケートの結果から（156件の回答）

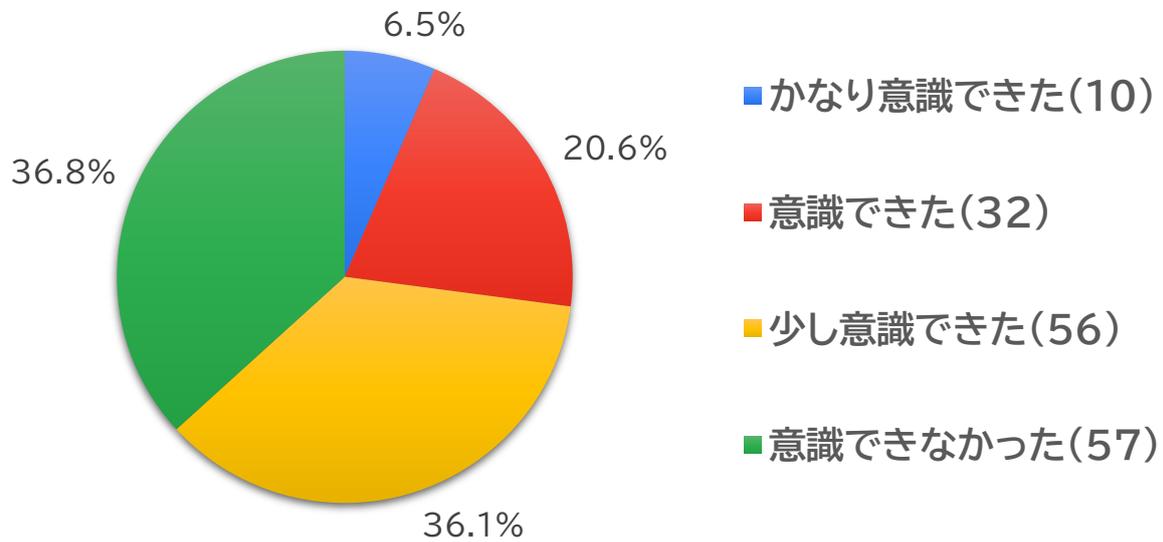


今回は156件のアンケートを回収できた。前回（令和5年度11月1日実施）でのアンケートの回収数は117件で、前回と比較すると39件上昇した。また、今回の回収数はこれまでの全4回のうち最高の回収数となった。第3回までは減少し続けていたが、アンケート結果の公表や粘り強く周知することで、本事業の目的や、アンケート調査の実施について多くの方に理解してもらえたと考えられる。また、今回のアンケートの回答数から、本事業が町内に浸透していることがわかる。

### 回答件数

R4	R5	R5	R6
11月（第1回）	6月（第2回）	11月（第3回）	2月（第4回）
142件	126件	117件	156件

## ノースクリーンデーを意識して過ごせたか



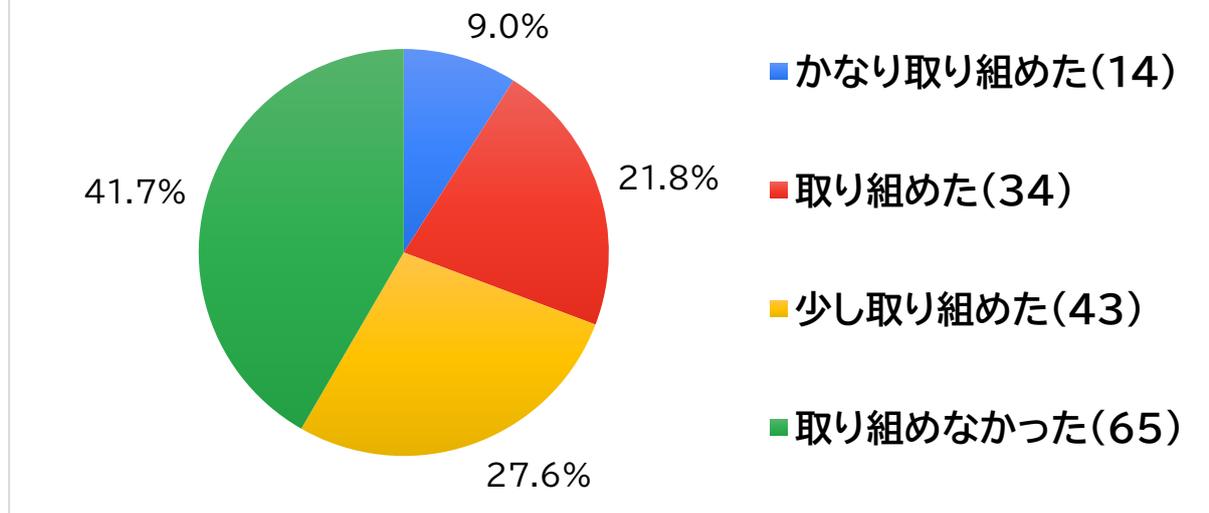
ノースクリーンデーを意識して過ごせましたかという質問に対し、「かなり意識できた」「意識できた」との回答が27.1%となり、前回より11.4ポイント減少した。また、「少し意識できた」を含めると、63.2%となり、前回と比較すると8.6ポイント減少した。

今年度最後を迎えるノースクリーンデーだが、回収数が増えたことはいいことだが、少しでも意識できたと回答した家庭が70%を下回る結果となった。

### 少しでも意識できた (%)

R4	R5	R5	R6
11月 (第1回)	6月 (第2回)	11月 (第3回)	2月 (第4回)
78.2%	75.4%	71.8%	63.2%

## ノースクリーンデーの取組を行えましたか

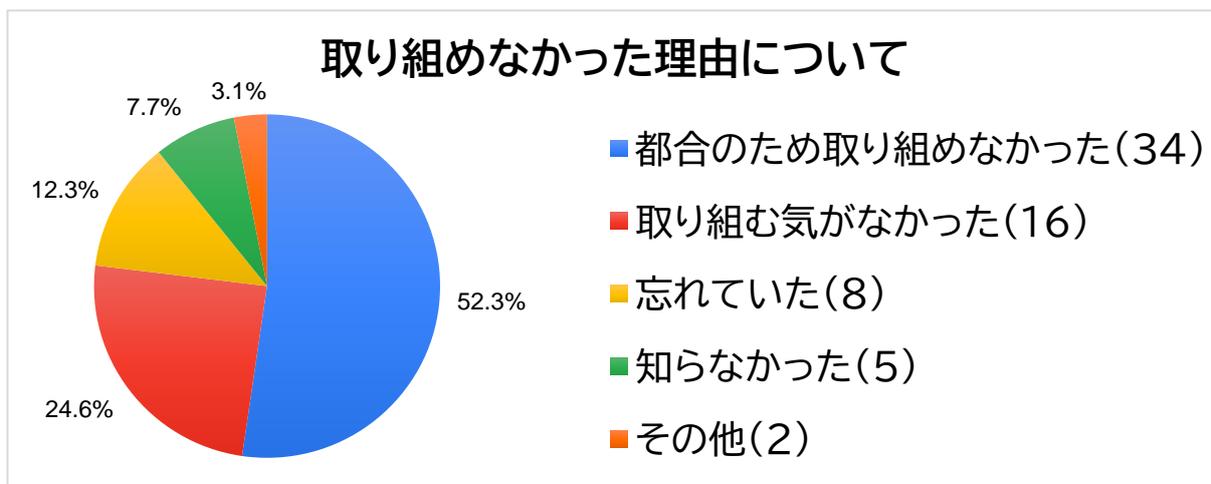


ノースクリーンデーの取組を行うことができたかについては、少しでも取り組めたと回答した家庭が58.4%となった。「かなり取り組めた」「取り組めた」の数字については、前回とほぼ同じパーセンテージとなったが、「少し取り組めた」のパーセンテージが前回に比べ約10%減少し、その分が「取り組めなかった」のパーセンテージが増加する結果となった。

このことから、取り組めなかった家庭が増加したことが分かる。今後も引き続き本事業が取り組みやすいものだというイメージの定着が必要だと考える。

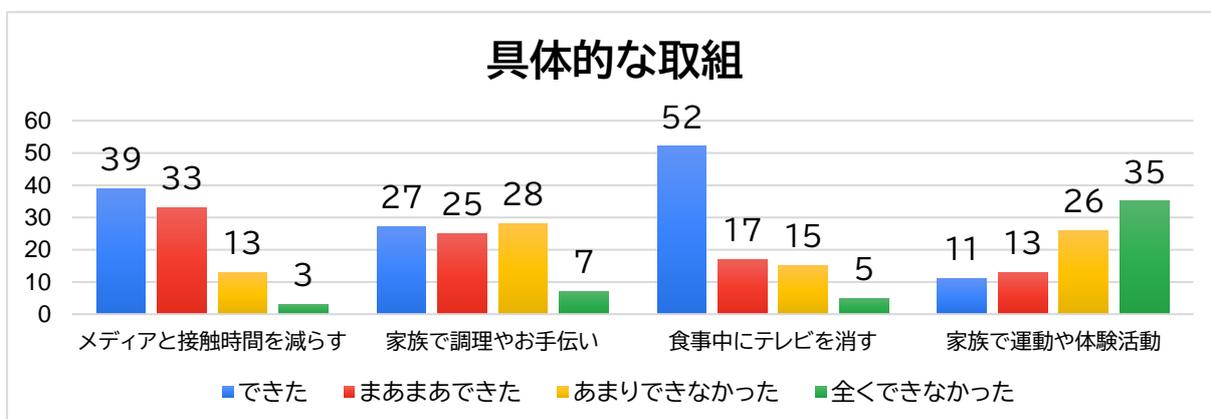
## 少しでも取り組むことができた (%)

R4	R5	R5	R6
11月 (第1回)	6月 (第2回)	11月 (第3回)	2月 (第4回)
73.3%	70.6%	69.2%	58.4%



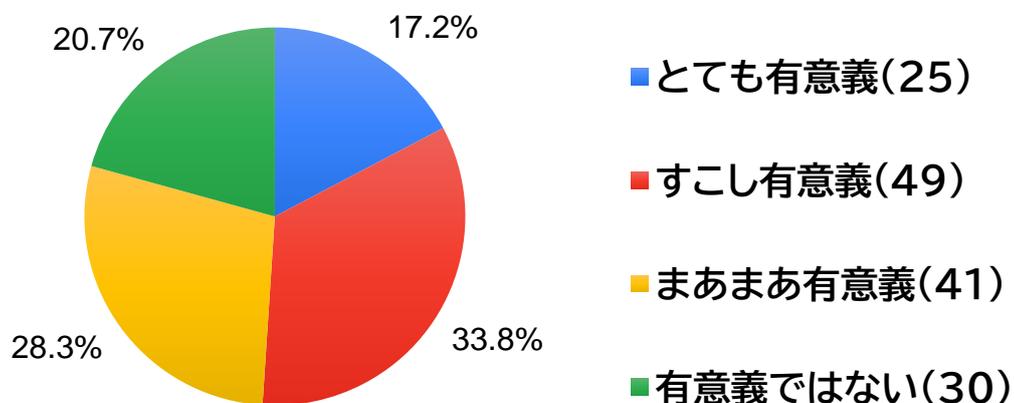
「取り組めなかった」と回答した方々（65件）の取り組めなかった理由について伺った。「知ってはいたが、都合のため取り組めなかった」との回答が34件（52.3%）で最も多かった。それに次いで「取り組む気がなかった」が16件（24.6%）で多かった。これらの数値は前回、前々回とほぼ同様の数値となった。

その他の項目において、「メディアの使用は日頃から制限を設け、必要に応じた使用を徹底している」という回答があった。このように、ノースクリーンデーに関わらず、普段から意識して過ごしている方もいることが分かる。



「かなり取り組めた」「取り組めた」「少し取り組めた」と回答した方々（91件）に対して、具体的な取り組みを伺った。前回、前々回と同様に考えれば、「食事中にテレビを消す」という項目における「できた」の数値は67～68%を示すことが予想できたが、今回のアンケートでは57%の52件に留まっている。しかし、「メディアとの接触時間を減らす」「家族で調理や読書、お手伝いをする」の2つの項目で、これまでは「まあまあできた」が最も多くなっていたが、「できた」という回答が上回っていたことから、食事中にテレビを消す以外の取組に対する意識が向上していることが分かる。

## ノースクリーンデーは有意義でしたか



ノースクリーンデーは有意義でしたかという質問に対して、「とても有意義」「まあまあ有意義」「すこし有意義」と回答し、ノースクリーンデーが少しでも有意義だと感じている家庭は115件（79.3%）となった。これは前回から7.7ポイント減少した。有意義だと感じている家庭は令和5年の6月実施の89.3%をピークに減少している。

来年度は、少しでも多くの家庭でノースクリーンデーを有意義だと感じてもらえるように努めていきたい。

R4	R5	R5	R6
11月（第1回）	6月（第2回）	11月（第3回）	2月（第4回）
85.9%	89.3%	87.0%	79.3%

## ノースクリーンデーに対する意見（20件）

こどもが親にもノースクリーンを強制します、例えそれが仕事でも(苦笑)。それでも全然かまわないのですが。

ご飯の時間テレビを消すと子供も早く食べ終わり時間に余裕があった、会話も増えた。月一回くらいはノースクリーンデーにしても良いと思った

スクリーンとどう付き合うかは、スクリーンの時間ではなく、デジタル機器やメディアの性質を親が理解し、どのように子どもに伝えるかの方が大事だと思います(メディアリテラシー)

テレビはニュースを見るけれども、他はできます。

トランプでババ抜きにハマリ家族で楽しみました

またお願いします。

家庭によると思います。学童ではきちんと取り組みました。

気にしている余裕が無い。

今後は我が家独自のノースクリーンデーを設けてみようかと思いました。

次回はしっかり取り組みたいので、また行って欲しい

週末にやってほしい

宿題が終わらない、約束を守れなかったという家庭の事情が、たまたまTV禁止につながった。普段から、スマホを見せる習慣はない。

情報過多なこの時代、健やかな子どもを育てるために、各家庭が日頃から取り組むことが大事だと思います。ノースクリーンデーがそのきっかけになるとよいですね。

生活の一部になっていて、ノースクリーンは難しい。別に家族との交流の時間はとれている。

先生からも周知してもらえるので、子供達が自ら進んで取り組んでくれます。

普段あえて切ろうと思わないので良い取り組みだとおもいます。

普段からそんなに見る機会がないので、普段通りでした

父が本にハマっています

平日は気持ちに余裕がないので難しい。

毎回残念ながらなかなか取り組むことが出来ず終わってしまいますが、意識は少しずつ変わってきました。

肯定的な意見	否定的な意見	普段から取り組んでいるという意見
--------	--------	------------------

今回、ノースクリーンデーについて20件の意見が寄せられた。これまでのノースクリーンデーにおいても、様々な回答が寄せられてきた。その中には、肯定的な意見もあれば、ノースクリーンデーに否定的な意見を寄せる人もいた。また、こちらの意図がうまく伝わらず、ノースクリーンデーの取組に対して、非常に高いハードルを設けているように感じる記述をする人もいた。

しかし、今回の記述回答に関しては、これまでの記述回答の中で最も肯定的な意見が多く、ノースクリーンデーが町民に受け入れられていることがわかる。